αἷμα
ハイマ

知っておきたいキリスト教のことば （134）

血 ち

聖書の中で、「命」を思い浮かべるものといえば、何でしょうか。天地創造の場面で神さまが土をこねて人間を造ったとき、神さまはその鼻に命の息を吹き込まれ、生きる者とされました。

そしてその「息」と同じように「命」を象徴するものが、「血」です。ノアの洪水のあと神さまはノアとその家族に対して、契約を結びます。その中で神さまは、動物を食物とすることを許しますが、「肉はその命である血と一緒に食べてはならない」と命じられます。

さらに、「あなたがたの命である血が流された場合、その血の償いを求める」、「人の血を流す者は人によってその血を流される」と告げます。つまり血は、神さまの支配下にある神聖な物なのです。

ユダヤの人たちは血が流れることに対して、否定的な考えを持っていました。「12 年間出血が止まらない女性（ルカ 8:43～48）」は差別されていました。また出産した女性は決められた期間、聖所に赴くことを禁止されていました。

イエス様は最後の晩餐のときに杯を取り、弟子たちに与えて「これはわたしの血である」と言われました。杯の中に入っているぶどう酒をご自分の血にたとえられ、飲むようにと命じます。これは文字通りに「血を飲め」と言っているのではなく、「わたしの命をあなたがたは頂き、それによって生きなさい」と命じておられるのです。

わたしたちの聖餐式には、このような意味があります。その場でいただく物がパンであれウエハースであれ、そのときに飲む物がぶどう酒であれぶどうジュースであれ、そこに大きな違いはありません。その物質を頂くことでわたしたちがイエス様の身体と血によって、つまりイエス様の命によって生かされていることを想起することが、何よりも大切なのです。

次回は「知恵」です。お楽しみに。

「アベルを殺すカイン」
ピーテル・パウル・ルーベンス
（1577～1640 年）

そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。

（マルコによる福音書 14 章 24 節）